

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」に毎年各中学校から生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

プラチナ未来人財育成塾での学び

菊池南中学校2年 後藤咲貴子さん



私がプラチナ未来人財育成塾に参加して一番心に残ったことは、戦争について話を聞き、グループ討議をすることで、考えを深められたことです。私は戦争について、「爆弾」や「人の死」が怖くて見たり聞いたりすることが嫌でした。しかし、今回のプラチナ未来人財育成塾での講義で、世界の戦争について考える機会があり、今までの「戦争」に対する考えが大きく変わりました。

事前学習で、藤原帰一先生の講義を受けて、今世界で起こっている戦争や紛争では、太平洋戦争の何倍もの死者が出ているという話を聞きました。例えばシリア戦争では一般市民は少なくとも20万人が亡くなり、600万人の難民がいるそうです。私はどこかで、太平洋戦争よりも恐ろしいことが起こっていると思うと、目を背けてはいけなと感じました。事実を知り、自分も何か行動していかなければいけないと思います。

国谷裕子先生のSDGsについての話も、戦争に関する部分が残っています。質疑応答で「17の目標の中で一番達成に近い目標と遠い目標は何

か」という質問がありました。国谷先生は「一番近い目標は教育であり、一番遠い目標は戦争をなくすこと」とはっきりと答えられました。私は、一番遠い目標である戦争こそ、世の中がすべてを達成しなければ、SDGsのすべてを達成することができないと思います。達成が一番近い目標である教育の中で戦争について考えていくことも、正しい知識を得ることで、少しでも目標達成に近づけるのではないかと考えます。

また、日本科学未来館に行き、「2050年まで日本の平和が続くか予想して考える」シミュレーションを行いました。私は30年後の日本の姿をシミュレーションしてみました。すると、30年後の日本には平和が続かないという表示がされていました。なぜかというところ、「貧富の差」の問題があったからです。なぜ貧富の差によって平和が続かないのか、疑問になりました。貧富の差が大きかったことによる不平等感が軍部への支持にもつながり、日本は戦争への道に進んだ背景がありました。最近の調査では、日本の所得上

位10%にあたる人の資産が、国の総資産に占める割合は48.5%とされています。この割合が近年高まる傾向にあります。この割合が大きくなると、私は、早く貧富の差を解消しなければ、過去の過ちが繰り返され、大切な命が奪われてしまうことにつながってしまうのではないかと思います。

プラチナ未来人財育成塾に参加し、多くの先生方の講義を聞き、グループでの討論を通して、「戦争」を多方向から考えることができました。そのことによって、私の戦争に対する考え方が変わりました。戦争は間違いなく「怖いもの」「悲惨なもの」です。しかし、「私には止められない」とあきらめるのではなく、私たちの世代から、「戦争は絶対いけない」と声を上げていくなど、できる範囲で行動に移していかなければいけないと考えました。そのためにも戦争について正しい情報を知り、理解し、伝えていくことが大切だと思います。

今回の学びを生かし、南中生徒会を中心に戦争について語り、平和をつないでいくための行動に移していきたいと考えています。

社会を明るくする運動

つながり～活動通信～ vol.4

「社会を明るくする運動」では、犯罪や非行のない地域を目指し、一人一人が考え、参加するきっかけをつくることを目的に活動しています。

問い合わせ先
 社会を明るくする運動菊池市推進委員会
 ☎0968(25)7232(菊池市教育委員会生涯学習課内)
 【協力】菊池地区保護司会菊池分会広報部



今年度の主な取り組み

集会 令和4年7月2日に青少年育成市民会議と共催で、社会を明るくする運動菊池市集会を市文化会館の大ホールで3年ぶりに開催しました。

副会長による開会宣言後、内閣総理大臣および熊本県知事からのメッセージ伝達を推進委員2人で行いました。

作文募集 市民へ運動の理解と認識を広げることを目的として、市内の小中学生・高校生を対象に、犯罪や非行のない地域社会づくりや更生について考えたことをテーマに募集。29作品の応募があり、最優秀賞2作品を決定。集会以最優秀賞を受賞した2人の作文発表と表彰が行われました。

【最優秀賞】
 出口 玲さん（泗水東小学校6年）
 木下逢音さん（泗水中学校3年）

集会での記念講演 NPO法人奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」の三浦一広所長が、「すべての子にチャンスをも！」と題して講演。

三浦所長は、消防署勤務時代に関わった



三浦所長

不良少年の更生をきっかけに、青少年支援に30年以上尽力し、約3万人の更生に携わってきました。これまでの経験をもとに、すべての子にチャンスを与え、過去を許し、認め、褒め、励まし、感謝するという心、排除する心ではなく慈愛の心の大切さについて話しました。

参加者からは、「努力が報われる社会を作っていくことの大事さを痛感しました」と「聞いた話を実践していきたい」と思います」といった感想がありました。



7月に設置したのぼり旗 (菊池市文化会館)

のぼり旗の設置 各区の協力で7月の強調月間に設置。市役所や市内中学校では懸垂幕や横断幕を設置して、啓発活動に取り組みました。

協力金 協力金は令和4年11月中旬時点で89万6300円となり、各種事業に使わせていただきました。

協力雇用主を募集しています

協力雇用主とは、犯罪をした人や非行をした人などの自立と社会復帰に協力することを目的として、雇用、または雇用しようとする事業主のことです。無職者の再犯率は、有職者の約3倍で、刑務所再入所者の7割は、再犯時に無職です。再犯や再非行を防止するためには、仕事に就き、職場に定着して、責任ある社会生活を送ることが重要です。協力雇用主の存在が不可欠です。円滑な社会復帰・職場定着のためには、事業主との適切なマッチングが重要です。そのため、幅広い業種の協力が必要となります。

更生保護活動表彰 (敬称略)

- 【春の藍綬褒章】**
清水昭榮（川上）
 - 【全保連委員長表彰】**
後藤慶治郎（大琳寺）、米村達郎（雪野）
 - 【九保連所長表彰】**
伊藤道俊（袈裟尾）、高木恵美（道園）
- 【問い合わせ先】**
 協力雇用主菊池支部（くりの実会）
 ☎090(6292)4457
 菊池地区保護司会菊池分会長 森隆博